

第17回アジア競技大会(2014/仁川)応援レポート① 2014/9/27(土)

9月27日早朝、成田空港から韓国 仁川へアジア大会の応援に出発です。9時に成田を出発、11時半には仁川国際空港に到着する予定なので、そこから移動して、セーリング男子420級小泉 維吹さんの第10レースに間に合うはず。しかし、恥ずかしながら、セーリングの競技大会の応援は初体験。「会場はどんな感じか」の知識もほとんどないまま、逸る気持ちを抑えながらチェックイン。



定刻に仁川国際空港に到着。セーリング競技会場の「Wangsan Sailing Marina」へ向かうため、模範タクシー（観光客用で英語や日本語もできる）乗り場で行先を告げるも、乗車拒否。どうも近すぎて行きたくないらしい。それならば、タクシー配車指示をしているスタッフのお姉さんにチャレンジ！ つたない英語でも行先は伝わっているが、すぐに乗せてくれる車がないようで、「Wait！」とペット犬のようにStayさせられる。

5分ほど待たされると、おじさんの哀しさか、「イライラ」が抑えられない。次はスタッフのお兄さんにチャレンジ！するとすぐに、ポロシャツの襟を立て、車内に自分の子どもらしい3人の写真を貼った、少しいかついマイホームパパ運ちゃん登場。これでなんとか「Wangsan Marina」の10レースに間に合う。



人里離れた海岸線に突如、近代的で美しいヨットハーバーが出現。時刻はちょうど小泉さんの試合が始まる頃。現況を知るために、まずは建物の「VIP/Media」と書かれたところに行ってみる。ところが受付の5～6人の女の子は日本語、英語も通じない。ハングルでは手も足もでない。「パス、パス」と胸にさげたパスを突き出し、パスがない人はNGとアピールされる。あまり食い下がると不審者扱いされそうな気配を感じ、別の入り口へ移動。そこには制服のガードマン。ますます話がややこしくなりそうになった時、親切にも、先ほどの受付女子が英語を話せる若者を呼んできてくれた。



彼は「今日の2試合目スタートまで少し時間があるけど、待てる？」と、私は「Yes, We can!」と答え、ヨットハーバーと外海を案内してもらった。彼が離れ、外海をみると岸から沖にわたって、さまざまなヨットが波を格闘している。これはもしかして、試合の真っ最中???





もしや小泉・松尾ペアのセーリング男子420級の第10レースは始まっているのかも？と、アジア大会公式サイトを確認すると、「試合中」となっている。420級の姿は目視では判別できないけれど、『小泉さんガンバレ〜』

この会場は観客が数十人で電光掲示板やホワイトボードさえなく、どの試合が行われているかは判別できない。多分、日本人の観客は私たち2名のみ、大海原に向かって小泉・松尾ペアへの応援の念を送り続けた。

結果、男子420級の第10レースの1着はマレーシアペア、2着は4秒差で小泉・松尾ペアだった。素晴らしい！

第10レース終了時の得点結果*は下記の通り。小泉・松尾ペアは堂々の2位で、得点でも3位を大きく突き離し、1位とは状況によっては逆転も可能。応援しています！期待してます！（しっかりと目視できなくてゴメンなさい）

*＜セーリング競技は風下に設置されたスタート地点から一斉にスタートし、指示されたルートを回る速さを競う。低得点方式に基づいて、第1レースから第12レースまでの合計得点が最も低いチームが優勝。4レース未満は競技不成立。6レース以上は得点合計から最も悪いスコアを除外する。＞

Place	Name	Position	NOC	Points per Race										Total Pts	Net Pts
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1	NORIZAN Mohamad Faizal Bin ABDUL AZIZ Ahmad Syukri Bin	Skipper Crew	Malaysia	1	1	2	3	1	1	3	(4)	1	1	18	14
2	KOIZUMI Ibuki MATSUO Kotaro	Skipper Crew	Japan	2	3	1	2	3	2	2	2	(3)	2	22	19
3	LOH Jia Yi YEO Jonathan	Skipper Crew	Singapore	4	4	3	1	2	5	(5)	3	4	3	34	29
4	TSE Sui Lun CHIK Ho Yin	Skipper Crew	Hong Kong, China	3	2	4	4	4	4	(6)	1	5	4	37	31
5	JADKLAY Jirawat PHETSIRI Sarawat	Skipper Crew	Thailand	5	8	5	(8)	5	6	4	6	6	5	58	50
6	DUTTA Upamanyu Gautama CHAUDHARI Arosh Sanjeev	Skipper Crew	India	7	6	8	5	8	(8)	1	7	2	7	59	51
7	LAN Jingcheng ZHOU Weijie	Skipper Crew	China	(8)	7	6	6	6	3	7	5	7	6	61	53
8	KIM Wooyop KIM Insu	Skipper Crew	Korea, Republic of	6	5	7	7	7	7	8	8	8	(8)	71	63
9	AL NASR Abdulrahman Khalid A M AL MUFTAH Ali Abdulla K I	Skipper Crew	Qatar	10 RET	10 RET	10 RET	10 RET	9	10 RET	10 RET	(10) RET	9	9	97	87



余談ですが、セーリング競技の会場の「Wangsang Marina」は風光明媚な海岸線に近代的な建物が景観を乱さずに配置されたとても美しい会場でした。

アジア大会参加国の国旗が風を受けて豪快にはためいているのは壮観でした。
(下写真)

右の写真はその国旗群のそばで、国旗と世界平和をアピールする風が昇り龍のように空に吸い込まれるようにあがっています。

でも、それらを見に来るお客様が少なすぎて、かなりもったいない。
「魅力を伝える工夫や見せる仕掛け」が弱いのは少し残念でした。

